



スイセン

一人の健康から地球の未来まで

AKATSUKA グリーン通信

Green Communication

vol.202 2016.1月号

寄せ植えにも使える！ 芽出し球根

パンジーやビオラなど、花壇用草花類が一段落したあと、春に向けていろいろ出回ってくるのがヒヤシンスやスイセンなどの芽出し球根です。本来これらの秋植え球根は、12月までには植えこまなければいけないのですが、ポットにあらかじめ植えこまれた芽出し球根は今からでも様々な所に植えつけが可能です。特にこれから作る寄せ植えにはオススメです、すでに芽が出ているためイメージがしやすく、他の植物とも組み合わせしやすいのが特長です。

注目品種をご紹介します！

様々な種類が出回りますが、一番たくさん出るのがスイセンで、輝くような明るい黄色の花は寒さで凍えた心に元気を与えてくれます。とても丈夫な球根で、多少根が傷んでも球根から新しい根が出てくるので、気軽に扱えるのがありがたいところなんです。すらっとした立ち姿は他の草花類ともうまく調和し、軽やかな躍動感も醸し出してくれます。品種が多く、大輪から小輪まで様々な品種があります。が、ここ数年定番として出回ってくるのが、テタートという小輪の多花性品種。非常に花付きが良く、小さな球根からで

も花を上げてくるので、ポット苗でも数本の花茎が立ち上がります。鮮やかな黄色の花は早春の寄せ植えには欠かせないものとなっています。

ヒヤシンスもこの時期にたくさん出回ってくる芽出し球根ですが、なんといってもその素晴らしい香りが最大の魅力です。たくさん植えこんで、玄関先のウェルカムコンテナとして香りでお客様をお迎えるのもオススメです。ヒヤシンスだけ何色もまとめて植えても素敵ですが、かわいらしいコンテナにパンジーやビオラと組み合わせさせて植えつけるのも定番の楽しみ方でしょう。ヒヤシンスといえば青紫や白のイメージが強いのですが、最近ではオレンジ系も出回りバラエティが増えています。

チューリップはポット苗だけでなく、開花している鉢植えもたくさん出回ってきますが、この時期、気温が低いので驚くほど花持ちが良いのが特長です。暖かい部屋ではなく、寒風や霜を避けた軒下程度のところで上手に管理すれば、1か月近くも花を持たせることができるのです。その他にも、**クロッカス**や**ムスカリ**、



ヒヤシンス



チューリップ

スノードロップ、**シラー**、**アイフェイオン**、**イキシア**などなど、小球根類もたくさん出回ってきます。そのまま花を咲かせてくれるものも多いのですが、できれば庭やコンテナに植え替えて楽しみたいもの。植え替えるときのコツは、基本的には根鉢を崩さないことです。多くの球根類は草花とは違い、根が切れてしまうと再生しないものが多いからです。

管理方法

花後の管理ですが、庭植えの場合は来年咲かせることも容易なのでタネができないよう、花ガラ摘みを行って、お礼肥を与えておきましょう。カリ分の多いハイポネックス微粉を液肥にして数回与えるのがベストです。しかし、コンテナに寄せ植えした場合は球根を再生するのが難しい(スイセン、ヒヤシンス、ムスカリは大丈夫です)ので、一年草感覚で思い切って抜き取ってしまう方がすっきりします。